

北見市観光テキスト第2版発行にあたって

北見市は、平成18年1市(旧北見市)3町(留辺蘂町・端野町・常呂町)が合併し、海・湖・山と広大な田園風景が広がる国内第4位の面積を誇る新北見市が誕生しました。

この広大な土地には、灯台下暮らしの観光素材が豊富に点在していましたが、北見の観光素材を総合的に纏めたテキストもなく、市内を案内する観光ガイドもありませんでした。

北見市に來られた観光客やビジネスマン、コンベンションに参加された方々に受入れる側の北見市の観光を案内する観光ボランティアガイドが平成20年に発足しました。

それから、5年が経過し北見市には新たな観光資源として平成24年(2012年)道の駅おんねゆ温泉に「北の大地 山の水族館」がリニューアルオープンし、12月には光葉町にスケートリンクのオープン、平成25年(2013年)11月1日には常呂地区に国際大会を誘致できるカーリングホールのオープン、東陵運動公園には武道館の完成などスポーツツーリズムを通して交流人口が拡大する施設が完成してきました。

また、全国に広がったキャラクターブームの先駆けともいえる北見自治区のミントくんは昭和61年(1986年)に誕生し、端野・常呂・留辺蘂の自治区にも広がり現在では、オホーツク管内に「オホキャラ隊」が組織されるなど市町村をPRする為のアイテムとなっています。

北見市は、オホーツク管内の中核都市と自負しており、北見市を核として大雪・阿寒・知床などの国立公園に1時間30分から2時間で行くことができ、食の集積地として和洋食やナイトライフが楽しめる都市型観光地と、おんねゆ温泉やサロマ湖畔のリゾート型観光が楽しめる滞在型観光地であることも解かってきました。

日本国の観光施策では、観光庁が発足し外国人観光客の誘致を「Japan Endless Discovery」と証し「終わりのない、再来の日本」と打ち出した政策を展開しています。

このことは近年増加している外国人を受入れる基本的な「おもてなしの心」が不可欠であり、日本人のおもてなしは言葉を越えたマナーとして高い評価を得ていますが、北見市民から「北見には観光なんてありません。」の言葉は、外国人観光客にとっては不思議に感じられています。

今回の観光テキストの改訂にあたり、北見のお国自慢の整理とオホーツクの中核都市から広域観光案内ができるテキストをめざし作成いたしました。

北見市の魅力は北見市民であり、市民が案内する北見市として北見市観光テキストを活用していただけたら幸甚です。